

ゴキブリ駆除用ベイト剤

マックスフォースジェルK

ヒドラメチルノン

Q&A

マックスフォースジェルK

?

ヒドラメチルノン

?



Bayer Environmental Science



Q.1

マックスフォースジェルKとは何ですか？

厚生労働省から医薬品の承認を得たゴキブリ駆除用ベイト剤です。希釈液を散布して処理するものではなく、少量スポットで施工する環境にやさしい食毒剤です。

A.1

Q.2

マックスフォースジェルKはどのようなものなのですか？

A.2

マックスフォースジェルKは、ゴキブリの好む餌成分を配合した食毒剤で、粘性の高いペースト状の固形物です。ピーナッツバターペーストの様なものをご想像ください。このペースト状のベイト剤をゴキブリが食べることでゴキブリが死に至ります。さらに、マックスフォースジェルKを食べたり、触れたりしたゴキブリが隠れ場所に戻ったとき、そこにいる仲間のゴキブリたちにも殺虫効果が及びます。「ドミノ倒し」のように2次的にベイト剤の効果が次々と伝播されるため、幼虫から成虫まで駆除が可能です。

害虫駆除業の方たちが事前にゴキブリの潜む隙間や隠れ場所を調査して、その付近に集中的にスポット処理することで、必要最低限の薬剤量で最大の効果を発揮する薬剤です。

Q.3

ゴキブリは人にどのような害を及ぼしますか？

ゴキブリというと見た目の不快感や食品への食害と混入や悪臭などがすぐに思い浮かびますが、サルモネラ菌をはじめ、多くの病原体を運びます。

また、体液などゴキブリ由来のアレルゲンによって、子供や老人の喘息を悪化させる報告もあります。

A.3

Q.4

マックスフォースジェルKはどのように使用するのですか？

A.4

マックスフォースジェルKは散布剤ではありません。マックスフォースジェルKを米粒大の大きさ(0.25~0.5g)で、1m²あたり1~2g程度の量になるように、ゴキブリが潜む隙間や隠れ場所付近の壁、床などの面に付着させ、ゴキブリが食べるのを待ちます。また、薬剤を付着させる補助容器を使用することで、壁、床を汚すことなく、処理できる上、回収も容易にできます。

Q.5**マックスフォースジェルKの蒸散性について教えてください。**

マックスフォースジェルKの蒸散は実質無いと言えます。有効成分ヒドラメチルノンの蒸散量は $2.69 \times 10^{-8} \text{hPa}$ (25°C) であり、この値は有機りん系殺虫剤のおよそ1/1000に相当するものであり、非常に蒸散しにくいと言えるでしょう。

A.5**Q.6****マックスフォースジェルKによる居住空間への影響について教えてください。****A.6**

空気中に薬剤が放出されたり、蒸散して室内空間に薬剤が漂うタイプではありませんので、マックスフォースジェルKは人にやさしいと言えます。最近、IPMという言葉をよく耳にされる機会があると思います。IPMとは物理的、化学的、環境的な防除手段を組み合わせた害虫の総合防除管理手法であり(注1)、環境に配慮したものです。マックスフォースジェルKは環境に配慮する化学的処理として組み込まれています。

(注1)：考えられるあらゆる有効・適切な技術をお互い矛盾しない形で組み合わせて使用し、害虫獣を許容水準以下に減少させ、その後もそのレベルに維持する害虫獣の個体群管理システムと定義づけされております。

引用：社団法人日本ペストコントロール協会
建築物におけるIPM仕様書ネズミ・害虫等の調査と防除基準」

Q.7**万が一、マックスフォースジェルKを口にした場合はどうしたら良いですか？**

害虫駆除業者がゴキブリの潜む隙間や隠れ場所にジェル剤を施工しますが、通常、手に触れ難いところに施工されます。そのため誤ってマックスフォースジェルKを口にする確率は低いと考えられます。しかし、万が一、本品を口にした場合は、有効成分がヒドラメチルノンであることを告げて、医師の診断を受けてください。

A.7**Q.8****仮にマックスフォースジェルK が誤って手などに触れた場合、アレルギー反応など起すでしょうか？****A.8**

動物実験からの感作性試験結果(モルモット 感作性なし)より、アレルギー性は確認されておられません。

Q.9

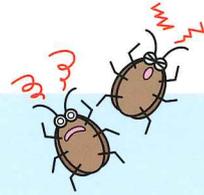
有効成分ヒドラメチルノンはどんな成分ですか？

ヒドラメチルノンはエネルギー代謝を阻害する成分です。エネルギーが補給されずに動けなくなったゴキブリは静かに死に至ります。神経毒ではないので、人の神経系に中毒を及ぼすことはありません。哺乳類である人に対しては人体内に非常に吸収され難い性質があります。そのほとんどがそのまま変化せず体外に排出されます。ちなみに、ヒドラメチルノンは一般に広く市販されているゴキブリ食毒剤にも使用されている成分でもあります。

A.9



財団法人 日本中毒情報センターの
ホームページ (<http://www.j-poison-ic.or.jp/homepage.nsf>)
にアクセスして頂き、中毒情報データベースから
物質名の欄に「ヒドラメチルノン」と入力して
検索実行ボタンを押して、
内容をご確認することも可能です。

**MAXFORCE**

取り扱い店名

®はバイエル クロップサイエンス(株)登録商標

バイエルクロップサイエンス株式会社
エンバイロサイエンス事業本部
〒100-8262 東京都千代田区丸の内1-6-5
www.bayercropscience.co.jp